

日本をキリストへ 協力

5

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1
OSCCビル日本福音クルセード気付
TEL 03-295-4414

積極、果敢な伝道を

協議会会長 本田弘慈

「あなたの天幕の場所を広げ、あなたの住まいの幕を惜しみなく張り伸ばし、綱を長くし、鉄のくいを強固にせよ。」

(イザヤ五四2)

私は全国の教会をあちこちみて、集会を成功させるには四つの秘訣があるな、ということに気がつきました。それは、

1 ビジョンをもつ

現状維持を打ち破って、積極的に前進していくことです。

2 よく祈る

神をとらえている人が人をとらえることができるのです。神を動かしている人が人を動かすことが出来るのです。人の手の業ではなく、神に祈り、神に働いていただくことです。

3 スタッフの一致

互いにゆずり合い、赦し合い、愛し合うことです。一致しているときに仕事は進んでいきます。Doingよりbeing。何をするかより、何であるかが大切です。

4 人を用いる

牧師がすべてをやらないで、信徒を用いること。

さて、上記の聖句から四つのことをチャレンジしたいと思います。

一天幕を広げよ

幻を拡大することです。「棒ほど願って針ほど答えられる」と言うではありませんか。積極的に幻を拡大しましょう。

二住まいの幕を張り伸ばそう

愛の交わり、愛の心を広げることです。

三綱を長くしよう

忍耐をもって、積極的に働きを進めていくことです。他の団体がやっているフィールドだからと遠慮することはありません。私の今年の標句はヨハネ十一・40です。「信じるなら、神の栄光を見る」

四鉄のくいを強固にしよう
聖言に立つことです。

伝道団体連絡協議会は交わりの場です。何かを一緒にやることも大切ですが、交わりを大切にしていかなければなりません。何かを一緒にやっていかなければならないと思うとむつかしくなる団体もあるので、よく配慮してほしいと思います。

主が各団体を祝福し、

拡大の年

前進の年

必要が満たされ、勝ちえて余りある年としてくださるよう心から祈るものです。





'87青少年伝道年にあたって

青少年伝道年推進委員会委員長

菊池良市

新しい仕事の一つは、青少年に対する伝道の重荷であり、映画「はばたき」を多くの先生方のご協力によって製作いたしました。

この映画を製作する時点においては、各種伝道団体がこのように青少年伝道に重荷を負って立ち上がることは夢にも思っておりませんでした。こうした流れの中で導きを思うとき、深い主のご摂理であったと感謝しております。多額の資金を要しましたが、その必要も栄光のうちに満たされることを信じております。

一九八七年を迎えるに当たり、この各種伝道団体の働きのために、主ご自身があなたの先に進まれる。主があなたとともにおられる。(申命記31・8)が与えられました。

主ご自身が、私たちの働きの前に進んで道を開いてくださり、主ご自身が、私たちと共にいてくださいます。これは主の約束です。

ヨセフはエジプトに売られました。いつも主が共におられたので、ヨセフが何をしても、主がそれを成功させてくださいました。

今年、今まで以上に不景気と言われ、各種伝道団体の経済的問題は更に深刻さを増すことでしょう。日本の多くの優良企業が、国際ユダヤ資本の中に根こそぎ買収されようとしており、すでにそのリストは手中にあり、幾つかの企業については、社長・重役陣の家族関係、交友関係、兄弟間の争いに至るまで詳細に調べられていると言われます。円高ドル安の背後を操る者は誰か。金融界の混乱、それらと平行するかの如き霊界の混乱、終末の近づいていることを感じます。然し、主ご自身が、諸団体の働きを祝福し先に進まれ、共にいましてその業を成功させてくださることを信じます。

一月九日には、青少年伝道年推進委員会が設置され、

- 一、各種団体の今年度の企画にどのようにして協力できるか。
 - 二、伝道団体が協力することによって可能となる企画は何か。
 - 三、伝道団体としてできることは何か。
- 等をさぐり、具体的に働き出しました。

時代の流れを見極め、主よりの知恵とアイデアをいただいで、伝道団体の存在と目的を充分に果たせることを祈ってやみません。

日本の牧師の中で救いを確信した年令は、十八、九才の頃の人がいちばん多いと聞いたことがあります。私は十九才の時に入信し、献身は二十二才の時でした。二十才前後に救いを確信し、献身に導かれた人が多いというのは世界的に共通しているようです。もしそうだとすれば、青少年に対する伝道には、実に大きな責任があると言えます。

昨年十一月の一泊研修会での主題講演と分科会にて取り上げられた課題は、「青少年伝道」でした。理由は、各種伝道団体が共通してかわる課題の一つは、青少年の問題ではないのだろうかということだと思います。

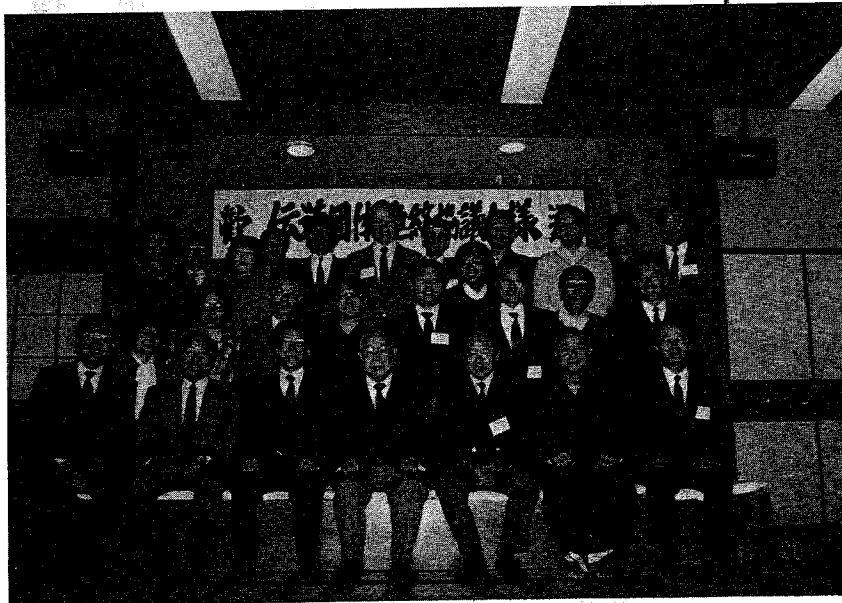
- 一、青少年をどう見ているか。
 - 二、青少年にどうかかわっているか。
 - 三、青少年をどうしようとしているのか。
- を考え直し、青少年を理解し、どのような問題意識を持って対処すべきかを語りあったことです。

私は、一九八五年夏よりクリスチャンA V センターの働きに導かれ、

箱根一泊研修懇談会

—一九八六年十一月二十一日—

21団体から28名の参加者を得て、二回目の箱根一泊研修会が小涌園でもたれました。準備小委員会でテーマを「青少年」にしぼったため参加者が前回よりへったのかもしれない。



K G Kの片山氏、H i B Aの吉枝氏によって、現代の青少年について分析、重荷の吐露をしていただき、大いに参考になりました。その後、ゆっくりと温泉にひたり、おせい秋の紅葉を觀賞しました。うちとけた夕食の時をもち、心をひとつにすることができたのは、大きな恵みでした。こういう時が必要だと思えます。八六年に初めて試みた「フェスティバル」について反省、評価がなされ、八八年に第二回をしてはどうかとの意向が打ち出されました。

夜は四つの分野に分かれて分科会がもたれ、翌朝もその続きをし、全体会でまとめがなされました。

一、一九八七年を「青少年伝道年」とする。

二、テーマは若者に相談して決める。

三、一九八七年六月頃、放送・視聴覚団体を中心にフェスティバルをする。

以上のまとめを受けて、十二月十七日に開かれた常任役員会で、八七年の青少年伝道を推進していく委員会を設置しました。委員長 菊池良市(A Vセンター) 委員は高(ミクナム)吉枝(H i B A) 片岡または片山(K G K)上條(W L P) ホーランド(キャンパス)竹内(J B S)の各氏。

この一年、各団体におかれましても、何らかの意味で「青少年」にかかわることを企画、あるいは賛助していただければ幸いに存じます。

露天の朝風呂につきり、白い月を見ながら八七年に思いをはせました。

新しい事をなさる主に期待と信頼を

国鉄福音同志会会長 富田清治

伝道団体の主にある皆様、主の年一九八七年の新年をお迎えなられた事をお慶び申し上げます。国鉄福音同志会のために、常々お祈りをしていただき、一同を代表し感謝とお礼を申し上げます。

さて、国鉄は今年の四月一日を目前に民営分割の作業が急ピッチで進められています。顧みますれば、一八七二年の開業から百十五年目にして、一大変革の年を迎えたわけです。この国鉄に対し、開業から十七年後の一八八九年には、早くも鉄道ミッションによる鉄道職員を対象に福音の種播ぎが開始されています。そして今日に至るまで、様々な過程を経て、鉄道職員の中から多くの献身者、主の器が輩出されて参りました。戦前、戦中一時は公けには活動出来なかった時代もあって、戦後の荒廃した職域を包んだ労働運動の中から「キリストの愛と和解」以外に国鉄を救う道は見出せないとして「職員による、職員の救いのために、職員への伝道を志す団体」国鉄福音同志会が昭和二十三年一月二十四日、大阪鉄道局（当時）の五階の会議室で主にある同志三十数名によって設立され、全国へ遼原の火の如く、この福音は拡大し続け、一時は老千数百名の同志の結集を見ました。全国の職場を拠点に支部が結成され、その数も四十八支部（一九六六年当時）となったのであります。当初は職場での施設使用も出来、容易に集会が出来たのであります。モーターリゼーションの波によって鉄道事業の合理化が進む中において、労使の対立、労働運動の激化してゆぐ中で人間関係の荒廃は組織の機能を脆弱にして行つたのです。そこに輪をかける様に、戦後大量採用層が退職年令を迎えて職員の大量退職時代を迎え、現職会員の比率は低下の一途を辿り、OB会員ばかりの支部が出て参りました。こういう私も、一年早く退職しており、現在民営移行時の処理のために会長に止まらされているわけです。

職域伝道において、聖書は「使徒の働き」から興味深い御言を教えられ続けています。第一に、職域伝道の発展成長の秘訣は、「使徒達の教えを守る」ことを銘記すべきだと思います。即ち、主の教会において語られる正しい教えを守ることを基本にし交わりを深めること。第二に、神に対し畏敬の念を持ち、主を見上げ、主の僕の心をもって賜物を共有として主に献げて行く。第三に、神を賛美し、すべての民に好意を持たれる存在であること。好意を持たれる事は証し人の大切な要因でしょう。それは本質的には、神への賛美をとおして、喜びと感謝が品性への評価につながってゆく事を心に留める必要を感じています。この年の四月一日、国鉄は新しく門出をしようとしています。世の移り変わりの中にあつて、今日も変わる事なく、「わたしは、きょうもあすも、次の日も進んで行かなければなりません」ルカ十三章33節と言われる主は、鉄道がある限り、そこに置かれている主の民を通して働かれるお方である事を信じ、新しい事をなさる主に期待と信頼をもって、なすべき業を教えられたいと願っています。

新年情報交換会 二月十二日(木) 午後二時

51の加盟団体が一同に会して、この一年の活動予定など情報を交換し交わりを深める会合です。「青少年伝道年」としての活動、視聴覚系の団体によるフェスティバルなども計画されつつあるようです。OSCCの小チャペルにお集まりくださいますようご案内申し上げます。

心を一つにして宣教に励んでまいりましょう。

- 発行日 一九八七年二月一日
- 発行者 本田弘慈
- 編集者 姫井雅夫